

2021年8月6日

2022年3月期 第1四半期 決算説明補足資料

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

株式会社大泉製作所

1. 2022年3月期 第1四半期業績

好調な市場環境が継続、四半期売上高は過去ピークを更新(*)

- 前年同期比では大幅な増収増益
- COVID-19前(2020年3月期)比も電動化領域を中心に全事業で増収(*)
- 増収と固定費の効率性向上により収益性も良化
- 旺盛な受注とBCP対応により棚卸資産が増加

2. 2022年3月期業績予想

足元の業績は好調も、半導体不足やCOVID-19変異株等が及ぼす影響の不透明感から、現時点では業績予想を据え置く

- 成長投資等のコストは第2四半期以降に発生する予定
- 世界的な半導体不足やCOVID-19再拡大による顧客の生産調整リスクの懸念

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、旧会計基準で算定した売上高で記載しております。

単位：百万円

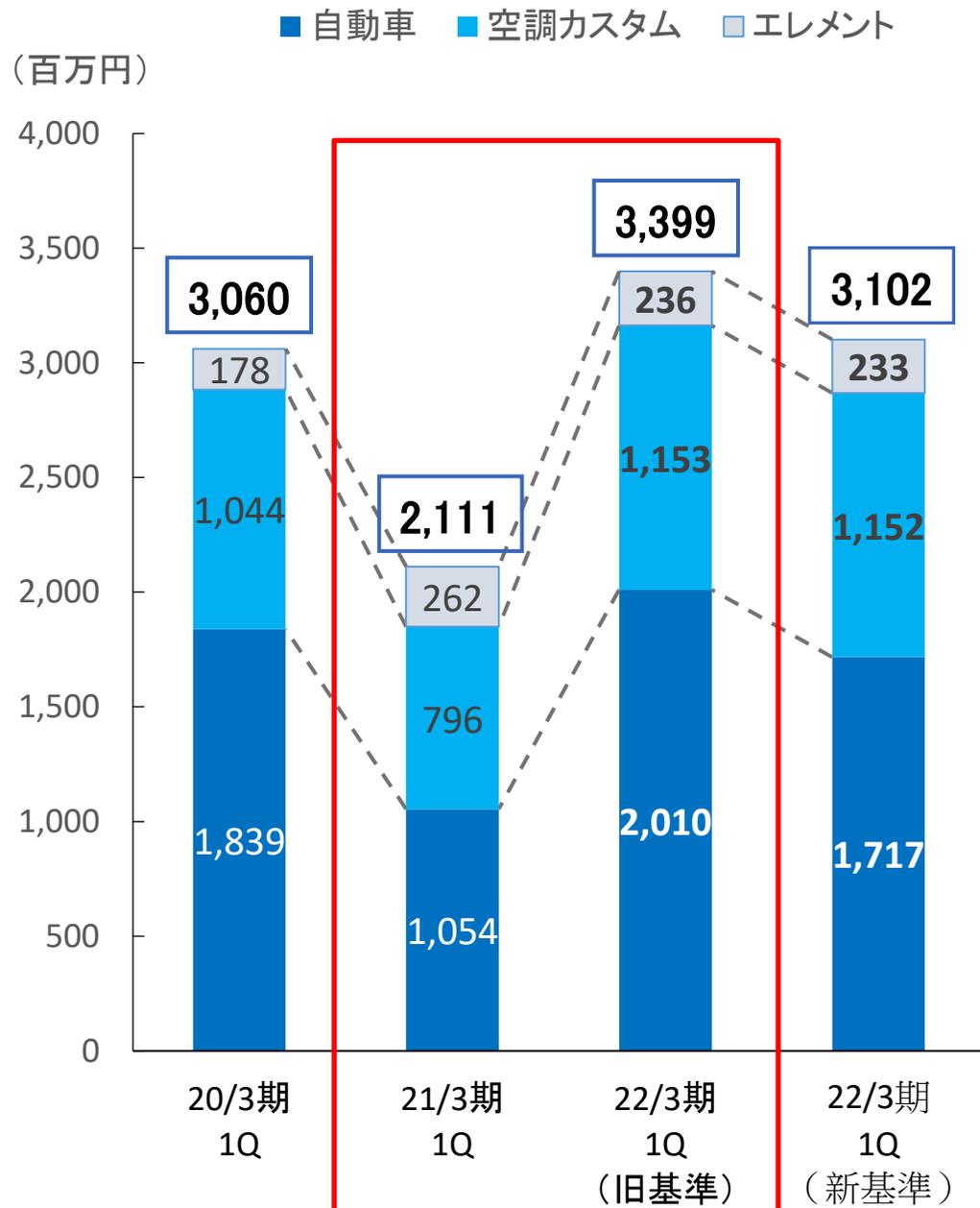
	2020年3月期 第1四半期		2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期			
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	2021/3期 1Q比	2020/3期 1Q比
売上高 (新会計基準)					3,102		147.0%	101.4%
売上高 (旧会計基準)	3,060	100.0%	2,111	100.0%	3,399	100.0%	161.0%	111.1%
営業利益	208	6.8%	△57	-2.7%	256	7.6%	—	123.0%
経常利益	176	5.8%	△27	-1.3%	233	6.9%	—	132.3%
当期純利益	150	4.9%	△36	-1.7%	138	4.1%	—	92.0%

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、2022年3月期第1四半期実績は有償支給取引に係る売上高の純額表示等を適用した後の金額で公表しております。

* 2022年3月期第1四半期実績の売上高比は旧会計基準により算定した売上高に対する比率を記載しております。

* 2021年3月期以前の実績は、旧会計基準による値を記載しております。

事業別売上高（前年同期比較）



事業	前年同期比* (百万円)	増減率*	増減コメント
全体	+ 1,287	+ 61.0%	<ul style="list-style-type: none"> ●前期後半の好調なトレンドが継続 ●COVID-19影響が大きかった自動車、空調が大幅増
自動車	+ 956	+ 90.8%	<ul style="list-style-type: none"> ●既存品は車両販売の回復により全エリアで増収、+80% ●電動化領域は新規立ち上げと数量増加により+140%
空調カスタム	+ 356	+ 44.7%	<ul style="list-style-type: none"> ●欧米、国内は巣ごもりによる家電エアコン用の増 ●設備投資の回復等により業務用エアコンの需要増 ●工作機需要は前期後半の回復トレンドが継続
エレメント	△25	- 9.9%	<ul style="list-style-type: none"> ●既存品は+40%と回復基調 ●光通信用は顧客の在庫調整が継続し▲45%

* 前年同期比及び増減率は、旧会計基準による値で算定しております。

エリア別売上高

- 市況回復により全エリアで前年同期比増収
- 中国は、好調な空調販売、中国国内投資の増加により空調カスタム事業を中心に増収
- 日本は、車両販売の回復や電動化領域の伸長、空調販売の増加等により全事業で増収

単位:百万円

エリア	売上高 (新会計基準)	構成比	売上高 (旧会計基準)	構成比	前年同期比*	増減率*
日本	1,457	47.0%	1,748	51.4%	+775	+79.8%
中国	728	23.5%	734	21.6%	+100	+15.9%
ASEAN	323	10.4%	324	9.5%	+112	+53.1%
その他	592	19.1%	593	17.4%	+300	+102.9%
合計	3,102	100.0%	3,399	100.0%	+1,287	+61.0%

* エリア区分は当社の納入先を基準とし、各売上高には納入後に他国に輸出されるものが含まれます。

* 前年同期比及び増減率は、旧会計基準による値で算定しております。

(単位:百万円)

	2020年3月期 第1四半期		2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期 *			
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	2021/3期 1Q比	2020/3期 1Q比
売上高(新会計基準)					3,102		147.0%	101.4%
売上高(旧会計基準)	3,060	100.0%	2,111	100.0%	3,399	100.0%	161.0%	111.1%
売上総利益	660	21.6%	368	17.5%	721	21.2%	195.9%	109.3%
営業利益	208	6.8%	△57	-2.7%	256	7.6%	—	123.0%
営業外収支	△32	-1.0%	29	1.4%	△23	-0.7%	—	—
うち、支払利息	△16	-0.5%	△8	-0.4%	△20	-0.6%	—	—
うち、為替差損益	△2	-0.1%	1	0.1%	△23	-0.7%	—	—
経常利益	176	5.8%	△27	-1.3%	233	6.9%	—	132.3%
当期純利益	150	4.9%	△36	-1.7%	138	4.1%	—	92.0%

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、2022年3月期第1四半期実績は有償支給取引に係る売上高の純額表示等を適用した後の金額で公表しております。

* 2022年3月期第1四半期実績の売上高比は旧会計基準により算定した売上高に対する比率を記載しております。

* 2021年3月期以前の実績は、旧会計基準による値を記載しております。

- 受注増加とBCP対応により棚卸資産、仕入債務が増加
- 新会計基準の適用に伴う契約資産の振替3.4億円により、売上債権増、有形固定資産減

◇資産の部

	21年3月	21年6月	増減
流動資産	6,642	7,518	+875
現金預金	1,703	1,685	△18
売上債権	2,452	2,919	+467
棚卸資産	2,390	2,640	+249
その他	95	272	+176
固定資産	3,474	3,136	△338
有形固定資産	2,990	2,667	△323
無形固定資産	136	139	+3
投資その他	347	329	△18
資産合計	10,117	10,654	+537

◇負債・純資産の部

(単位:百万円)

	21年3月	21年6月	増減
流動負債	3,703	4,197	+494
仕入債務	1,288	1,514	+226
有利子負債	1,698	1,778	+79
その他	716	905	+188
固定負債	3,697	3,659	△37
有利子負債	3,007	2,968	△38
その他	689	690	+1
負債合計	7,400	7,857	+456
純資産合計	2,716	2,797	+80
株主資本	2,282	2,388	+106
その他	434	408	△25
負債・純資産合計	10,117	10,654	+537

- 第1四半期の各段階利益は年度予想に対し50%超の順調な進捗

単位:百万円

	2022年3月期(通期)		2022年3月期 第1四半期		
	予想	売上高比	実績	売上高比	進捗率
売上高 (新会計基準)	11,170	100.0%	3,102	100.0%	27.8%
営業利益	345	3.1%	256	8.3%	74.2%
経常利益	310	2.8%	233	7.5%	75.2%
当期純利益	235	2.1%	138	4.5%	58.7%
為替レート(US\$)	105.0		109.5		

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、有償支給取引に係る売上高の純額表示等を適用した後の金額で表示しております。

注意事項

この資料に掲載されている、株式会社大泉製作所の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的
事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは、現在入手可能な情報から得ら
れた株式会社大泉製作所の経営者の判断に基づいており、内容の正確さについては細心の注意を
払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、当社は一切責任を負
うものではありませんのでご了承ください。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行
われるようお願いいたします。

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

IR お問い合わせはホームページからお願いします。

<http://www.ohizumi-mfg.jp/contact/>